



だより



R7.7.1 Vol.14

校長先生…よわっ

先日、担任の先生が出張で、1年生のテスト監督に行っていました。時間が5分ほど余ったので「しりとりでもしよっか?」とみんなで盛り上がりました。授業終わりの時間が近づいた時、ちょうど私の番だったので「次は『き』?き、き きりん!」「え~校長先生!『ん』ついた~!校長先生の負け~」「あ~ほんとだあ!負けちゃったあ~」とちょうどよく終わったつもりだったのですが、ある女の子に「校長先生!大人のくせに…よわっ」と厳しい一言を浴びせられました。(泣)

最近、子供と遊んでいるのあるあるですが、勝ったら勝ったで「校長先生!おとなげな~い」と言われ、負けたら負けただで「大人のくせにい~。」と言われる今日この頃。やりにくいご時世です。(笑)

次は勝~つ!



老害

時々見かけるこの言葉「老害」。若いつもりもないですが、まだ老いてもない!と思いつつも、『これってもしかしたら老害…?』と自分自身の言動が不安になることがあります。例えば四方山話を書きながら…『これって余計なお世話?老害?』なんて思うこともしばしば。

一冊の本を手にとってみました。「みっともない老い方」ふむふむ、なるほど、そうかあ…あてはまることは今のところ…結構ある!(泣)

『いや、だっていちおう校長だし、注意しないといけないことだってあるし…

次の世代を育てるのがリーダーの役目だし…』その本に向かって言い訳する時間ばかりが過ぎていきました…。



四方山話真穴 ver2. 其の十四(やっぱり私がアナログにこだわるわけ)

〈どい…とあきれた声が聞こえてきそうですが、お付き合いください。先日紹介した「シン読解力」の著者、新井紀子さんはAI研究の最先端に行く方です。その方がこんなことが書いていました。「子供たちに絵本や児童書の読み聞かせをしてやること、音読をしっかりとさせること、歌を歌うこと、演劇をすること、そんな活動を大切にしてください。」人と関わることや自分の身体操作を伴うことばかりですよ。デジタルの匂いは少しも感じません。先日、中学生の子を持つ知り合いと話す機会がありました。最近 SNS アプリのやりとりで男の子と女の子が付き合っているとか別れたとかがよくあるそうです。まあ、昔の交換日記とか文通とか(死語?)それがデジタルになっただけかもしれませんが…。「北の国から」というドラマがありました。(私、そのドラマのフリークです。笑)ドラマの中、携帯メールのやり取りだけで女の子と付き合っているという青年が登場します。「付き合っていてそういうことなのか?手をつなぐとか、肌の温かさを感じるとか、そういうことじゃないのか。」そう言われた青年は「おじさん!いやらしいんだよ!古いんだよ!今はそういう時代なんだよ!」と突っかかります。ふとそのワンシーンを思い出しました。

もちろん二者択一的な考えになってしまうと心の柔らかさが損なわれますので、どちらが正しくてどちらが間違いと結論付けるのはナンセンスです。人間が利便性を追及した結果、今のデジタル社会が構築されています。もちろん恩恵も限りなくあります。ただ「今!それが子供に必要か?」この視点は持っていてほしいと思います。今年もウクレレ片手に子供たちの誕生日には教室に押しかけます。時々違う歌を一緒に歌ったりもします。そんな中での子供たちの笑顔を見ていると、時代がどう変わろうと、まずは人と触れ合う時間!それを大切にしたいと感じる今日この頃です。(この話…老害ですか? 汗)



----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。